ごあいさつ

北海道教育大学附属旭川幼稚園
園長　北 山 雅 章

令和７年４月１日付で本園に着任し、早40日が過ぎました。５月初旬には、園庭の樹木（コブシ、エゾヤマザクラ、モクレン、サクランボ）の花が開きました。柔らかな春の風に花びらが揺れる様子に、私たちの心も和みます。

春の陽射しに誘われて園庭に飛び出した子供たちは、自分のやってみたい遊びに夢中になっています。そんな姿を見ていますと、この先しばらくは、穏やかでゆったりとした時の流れの中で、子供たちが思う存分に遊び、健やかにのびのびと育ってほしいと願います。

さて、幼児教育施設と小学校との円滑な接続について、その重要性がさまざまな場面で指摘されています。

あらためて現在の幼稚園教育要領を見ますと、次のような記述があります。

> 教育は、子供の望ましい発達を期待し、子供のもつ潜在的な可能性に働きかけ、その人格の形成を図る営みである。特に、幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要な役割を担っている。
>
> 幼児一人一人の潜在的な可能性は、日々の生活の中で出会う環境によって開かれ、環境との相互作用を通して具現化されていく。幼児は、環境との相互作用の中で、体験を深め、そのことが幼児の心を揺り動かし、次の活動を引き起こす。そうした体験の連なりが幾筋も生まれ、幼児の将来へのつながっていく。
>
> そのため、幼稚園では、幼児期にふさわしい生活を展開する中で、幼児の遊びや生活といった直接的・具体的な体験を通して、人と関わる力や思考力、感性や表現する力などを育み、人間として、社会と関わる人として生きていくための基礎を培うことが大切である。
>
> 幼稚園教育要領解説「幼稚園教育の基本　１　人格形成の基礎を培うこと」

これを読むだけで、幼稚園教育の善し悪しが、子供たちの未来、この先歩んでいく「おとなへの道」に大きく作用することが理解できます。幼稚園教育に携わる私たちは、その責任の重さを真摯に受け止めなければなりません。

本園は、令和７年度の重点教育目標を「発展する遊びで子供の心と体を育む」と設定しました。子供の自発的な活動である遊びは、身近な環境を、私たちが適切に構成すること発展していきます。子供が遊びに没頭することができ、満足感・達成感を味わい、心身ともに成長できる環境を整えることに力を尽くしていきます。

本園の教職員が一丸となり、誠意と責任をもって質の高い教育活動を推進していく所存です。

以上、ごあいさつといたします。